

2019 年 社長年頭挨拶 (2019 年 1 月 4 日)

皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年暮れから正月にかけて、6 日間の短いお休みではありましたが、皆さんは十分に休養、リフレッシュされ、気分も新たに、明るく元気に新年を迎えられましたでしょうか。

私もお蔭様でこの休みの間、主に自宅でゆっくり休養し、一年間の疲れを癒すと共に、十分に鋭気を養ってこれからの一年に備える事が出来たと思っています。ただ、例年の事ではありますが、流通事業部、リテイル事業部、そしてロジスティクス・オペレーション・センターの一部の方々には、お休みの間も会社に出社したり、また得意先からの連絡に対応したりと、いつもながら本当にご苦労様でした。

2019 年がいよいよスタート致します。この 1 年が、皆さんにとって、またわが社にとって、充実した 1 年間になることを、先ずは心から祈念致します。

さて、昨年の世界の動きを振り返ってみると、先ずは政治の面でいろいろなことが起こりました。ロシアのプーチン大統領が再選され、中国の習近平主席も期限のない主席となりました。日本でも、安倍首相が自民党総裁に再任され、米国では、中間選挙で上院ではトランプ氏の属する共和党が多数派を占め、トランプ大統領も未だ意気盛んで、各国とも長期政権を基盤に、思い切った政策を打ち出してきています。

また、経済の面では、好調な世界経済のもと、昨年前半は世界各国での株価の大幅な上昇がありました。中盤にかけては米中の貿易戦争、英国の EU 離脱交渉の行き詰まり、更にはフランスに於ける経済政策に対する大規模デモの影響等から、年末には大きく株価が下落して先行きが混沌とした情勢の中で新年を迎えると言った状況です。一方今年の日本においては、この春に予定される皇位継承、平成が終わり新しい元号に変わる大きな節目を迎える年になる訳です。また 10 月には実施予定の消費税増税などもあって、昨年以上に政治・経済面での変化がおきる年になるかと思われまます。

この様な情勢の中で日本の経済の先行き、更に、日本の包装業界が今後どのように影響を受けるのか。その中でわが社のビジネスに於いてはどのように対応し、戦略を組み立て、或いは組み直していくのか。常にアンテナを高くし、感度を上げて世の中の流れや市場のトレンドを敏感に感じ取る事が大切だと考えています。

わが社は、更なる成長に向け、2020 年を最終年度とする中期経営計画「Professional PRIDE'S 2020」を作成しましたが、この中ではパッケージングのプロフェッショナルとして包装業界のリーディングカンパニーを目指して、

思い切ったチャレンジングな目標を掲げました。またこの中期経営計画の中では「マーケティング・開発機能」「サプライヤー機能」「グローバル対応力」「物流機能」「組織力」の強化及び向上といったわが社の基盤強化、機能の強化を目指した定性面での目標も掲げています。今年2019年は、この中計3年目を迎えるわけですが、目標の達成に向けて引き続き全社を挙げて取り組んでゆく所存です。

さてここで、わが社の業績についても触れておきたいと思います。2017年度においては、売上高約1,732億円、経常利益、純利益とも過去最高レベルの利益を達成することが出来ました。今期2018年度は、わが社の将来を見据えての内部改革に引き続き取り組むことを前提に、利益的には昨年度を若干下回る目標としていましたが、外部環境が厳しさを増す状況の中で、この予算の達成も厳しい状況となっており、これから3ヶ月達成に向けた努力をお願いする次第です。

また、現在作成中の2019年度の粗予算を見る限りも、引き続き厳しい状況が続くものと考えられます。今後、皆さんを含め、全役職員の頑張りに依って何とか目標に近づけていきたいと思っております。



また昨年は、わが社にも直接関係する課題として、海洋プラスチック問題がにわかに関心されるようになり、これに端を発して環境の問題が世界的に大きく取り上げられております。わが社としても、この問題に如何に対応していくかが今年或は今後の重要な課題となってきています。

この様な中で2015年9月に国連で採択された、国際社会全体の2030年に向けた環境・経済・社会のゴールであるSDGs (Sustainable Development Goals) 「持続可能な開発目標」へわが社としても本格的に取り組んで行くために、「SDGs推進室」を設置しました。今年3月末までには、わが社としてのサステナビリティ経営の方針を機関決定します。皆様にも、全社員一体となってこの問題についての理解を戴き、方針に取り組んで頂きたいと思っておりますので宜しくお願いします。

さてここで、皆さんに二つのキーワードについてお話したいと思います。一つ目が、「環境変化への対応」、二つ目が「チャレンジ精神」です。

先程もお話しました様に、わが社を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。わが社は創立以来、素晴らしい取引先に恵まれ、また優秀な諸先輩の知恵と努力のお蔭で、順調に成長してくる事が出来ました。しかしながら、わが社を取り巻く環境は年々大変な勢いで変化をしており、今までのやり方だけに留まっていたら、時代から取り残されていってしまいます。そのため、わが社が包装業界で生き残り、更に成長していくためには、時代や環境の変化にきちんと対応すると共に、新しいことにチャレンジしていくことが必要であるということで、二つのキーワードを頭に置いて仕事に臨んで頂く様にいつもお願いをしてきました。しかし、ここへきて、このわが社を巡る環境の変化は、我々の想定を超えて速いスピードで進んでいて、今の儘ではわが社の対応は、この変化のスピードに追いついて行けていないのではないかと言う事です。私はこの点に非常な危機感を持っており、皆さんにもこの意識を共有して貰いたいと思っています。そのような中で、今年はこのキーワードの意味を更に深掘して、従来の仕事の在り方、やり方を自ら変えてみる。また、新しいビジネスの創出、ポートフォリオの再構築を通じて、環境に対応するだけでなく、環境を自ら変えて行く、リスクを恐れず思い切って変えて行くことに今年は取り組んで頂きたいと思っています。

今年の干支は、「己亥（つちのと・い）」です。「亥」というのは、十二支の最後の年であり、生命が収蔵された「核」「種」を意味し、次へステップアップするための準備期間で、次の十二支の最初の「子」のスタートに向けて思い切って始める年という事であります。

己亥は次のステージへ向けた準備を整えると言う意味を持っており、わが社で言えば、2020 中計の実現追求の為にあらゆる準備を整えて行く年という事で、私を含めて社員全員で強い意識を持って目標達成に向けて進んで行こうと強く感じている次第です。

最後になりますが、これは毎年お願いしている事ではあります。今年も法令遵守、コンプライアンスを最優先で留意願います。

また、三菱商事グループ企業の一員として、プライドを持って品位・品格のある言動を心がけることも忘れないで下さい。

今年1年間が、わが社にとりまして、また皆さんにとりまして、充実した輝かしい1年となるように一緒に力を合わせて頑張ってください！

以上